

投資意向調査 2020

64%の投資家が
不動産投資の配分増加へ

64%の投資機関が、今後24ヶ月間に不動産セクターへの投資エクスポージャーを拡大する予定であり、2020年には合計1,013億USドル以上の投資を行う意向。

今回の投資意向調査では、2020年に予想される非上場不動産投資の傾向を洞察。

2020 投資意向調査はANREV、INREVおよびPREAの3機関共同プロジェクトである。

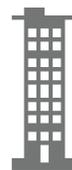
2020不動産資産運用総額

US\$804.9bn



機関投資家お

US\$87.6bn

ファンズ・オブ・
ファンズ運用会社

地域別 不動産投資配分増加予想

アジア太平洋



77.5%

欧州



55.7%

US



55.7%

US以外の米州



20.6%

調査参加規模

19
ヶ国

140

機関投資家およびファンズ・オブ・ファンズ運用会社

回答機関の本拠地

64
欧州43
北米33
アジア太平
洋

ANREV

INREV

PREA
pension real estate association

投資意向調査 2020

アジア太平洋地域
投資先都市トップ3

主な投資理由

- 1  専門家による運用
- 2  新市場へのアクセス
- 3  多角化による利点

主な投資への障害

- 1  透明性と市場情報
- 2  適する商品の存在
- 3  為替リスク
エクスポージャー

投資家の選好セクター
トップ3最も選好される
投資経路

- 1 非上場不動産ファンド
私募 REIT 58.3%
- 2 ジョイントベンチャー
クラブディール 36.4%
- 3 不動産の直接保有 28.9%

*上のパーセンテージ数値は、上記の特定ビークルに対する投資配分を増加する予定の投資家の割合を示す。

アジア太平洋地域 概観

シドニーとメルボルンが引き続き最も先行されるアジア太平洋の投資先トップ2となった。東京は第3位、大阪は中国のTier1都市を退けて第4位に上昇した。

国/セクターの組み合わせでは、メルボルンのオフィス、シドニーのオフィス、東京の住宅が投資家の選ぶトップ3となった。

詳細は、レポート全文を[こちら](#)からダウンロードしてご覧ください。